



Title	大阪大学総合図書館における 学習支援の取り組み : 場所の提供と、コンテンツの商品化
Author(s)	久保山, 健
Citation	
Version Type	AM
URL	https://hdl.handle.net/11094/14171
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大阪大学総合図書館における 学習支援の取り組み

--場所の提供と、コンテンツの商品化--

<配布用>

久保山 健 (KUBOYAMA Takeshi)

大阪大学 附属図書館 利用支援課 (サービス企画主担当)

<November 9, 2011>

丸善(株)主催

大学図書館における教育支援・学習支援の動向と事例

～大学図書館マネジメントの観点から将来のヒントを探る～

会場：パシフィコ横浜

本日の骨子

1. 自己紹介
2. 総合図書館ラーニング・コモنزの概要
3. 入館者数・貸出冊数増加を検証
4. 場所の提供についての課題
5. 総合図書館での学習支援
6. まとめ

1. 自己紹介

◆ 久保山 健 (くぼやま たけし)

◆ 現在の所属

大阪大学 附属図書館(総合図書館 / 豊中地区)

利用支援課 サービス企画主担当 (7ヶ月+)

◆ 経歴

・3月までは情報推進部 情報基盤課(約6年)

・本学のラーニング・コモンズとの関わりは、IT
関連のお手伝い

(*)さらにそれ以前は: 図書受入、雑誌全般、図書の契
約、和漢書の目録

2. 総合図書館ラーニング・commonsの概要 (1)

大阪大学附属図書館の構成

3 地区 (豊中・吹田・箕面)

○経緯

- ・ “B棟”の耐震改修計画がきっかけ
- ・ 2008年度 工事
- ・ 2009.6. オープン

○コンセプト

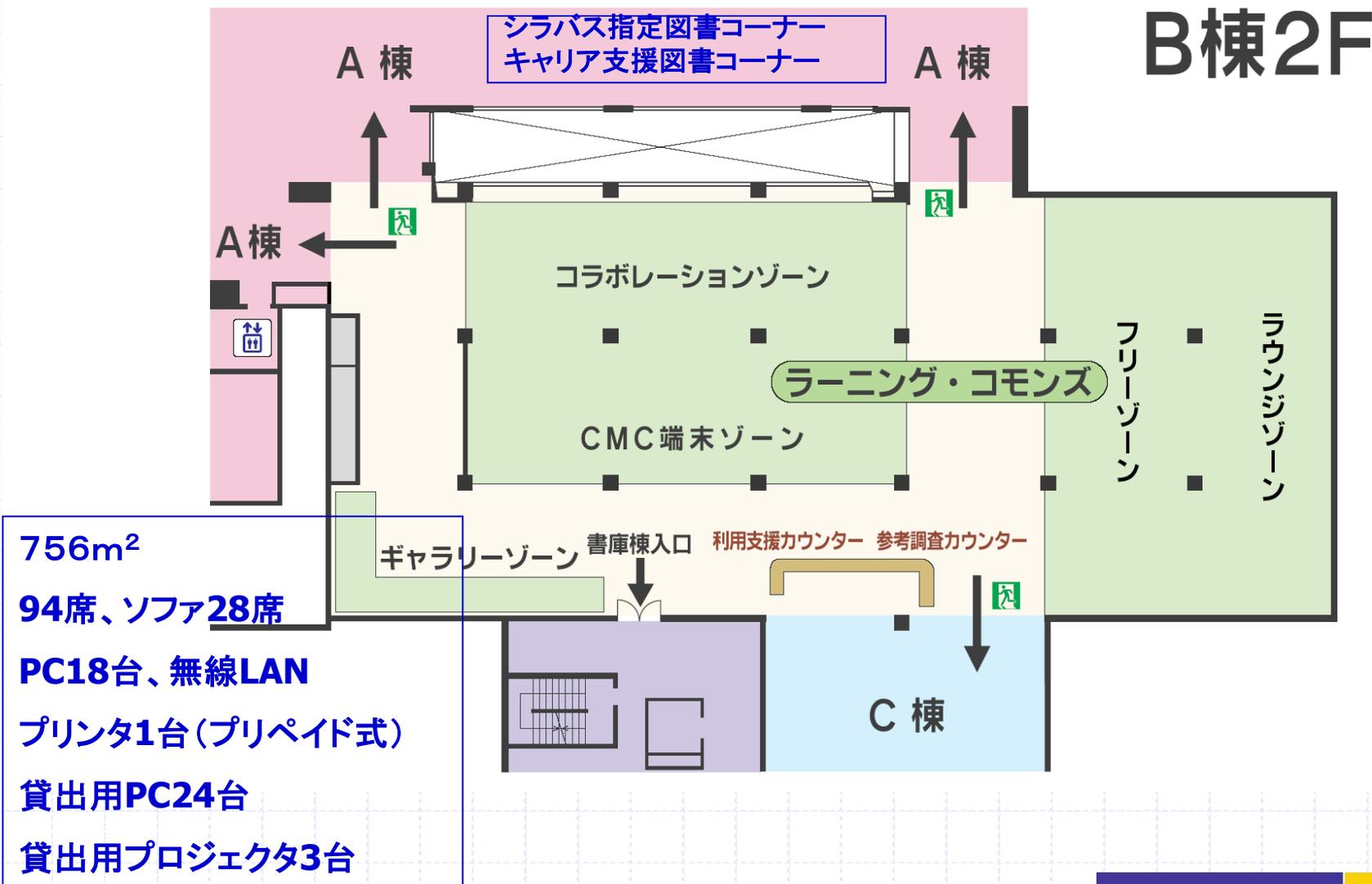
Reading から Learning

Teaching から Learning₄



2. 総合図書館ラーニング・commonsの概要 (2)

参考図書



[写真]



2. 総合図書館ラーニング・コモنزの概要 (3)

○ラーニング・コモنز整備前後の動き

2006.7 附属図書館長は総長の指名する副学長
(図書館委員会で承認) (従来は図書館委員の互選)

2007.4. 事務組織を再編

(係組織を班編制に変更。生命科学図・理工学図の受入・目録業務を総合図に集約)

2007.10. 大阪大学と大阪外国語大学の統合
外国学図の発足

2008 総合図・理工学図で耐震改修工事

3. 入館者数・貸出数増加を検証(1)

○(その前に)歴史の振り返り

2007.10. 大阪大学と大阪外国語大学の統合

2008年度 貸出数の上限を拡大(8→16冊)

総合図書館で耐震改修工事

2009年度(5月)総合図書館の開館時間延長(授業期)

平日: 21時→22時 土日: 17時→19時 祝日: 新規(10-17時)

(6月)総合図書館L.C.オープン

2010年度(12月)総合図書館で早朝開館の試行

(8:40開館、授業期間) *)2月まで

2011年度(4月)総合図書館で早朝開館の実施

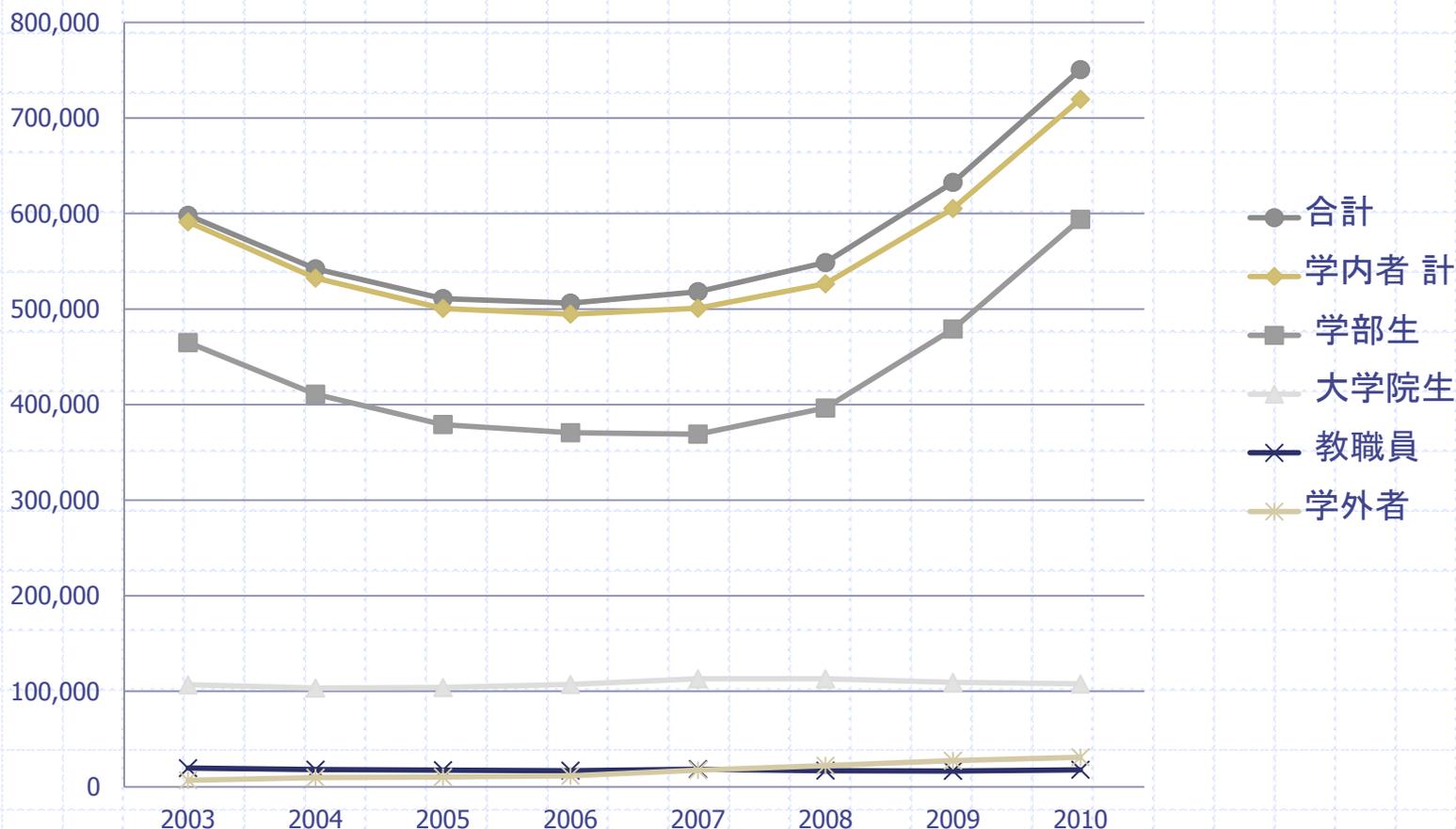
(8:00開館、授業期間)

3. 入館者数・貸出数増加を検証(2)

図1 入館者数の推移(総合図書館)

2010年度の
対2007年度比

人/年



3. 入館者数・貸出数増加を検証 (3)

○入館者数増加の評価

- ・ 3年間で1.61倍(学部生)の伸びは大学統合効果を超えていると判断
- ・ “学内入館者数／開館総時間数” の値も、1.30
- ・ L.C.効果 が大きいことは間違いないだろうが...
 - 同エリアの座席数は全体の1割にも満たない
 - ＞ 全体的な整備による機能の充実
 - ＞ 従来からの利用者のための静かな環境の確保
 - ＞ いくつもの学習環境整備の取り組み
 - ＞ 関連部署との連携
 - ＞ 開かれた図書館というイメージ発信

3. 入館者数・貸出数増加を検証 (4)

○入館者数増加の評価

・ 実入館者数の増加はまだ調べていない

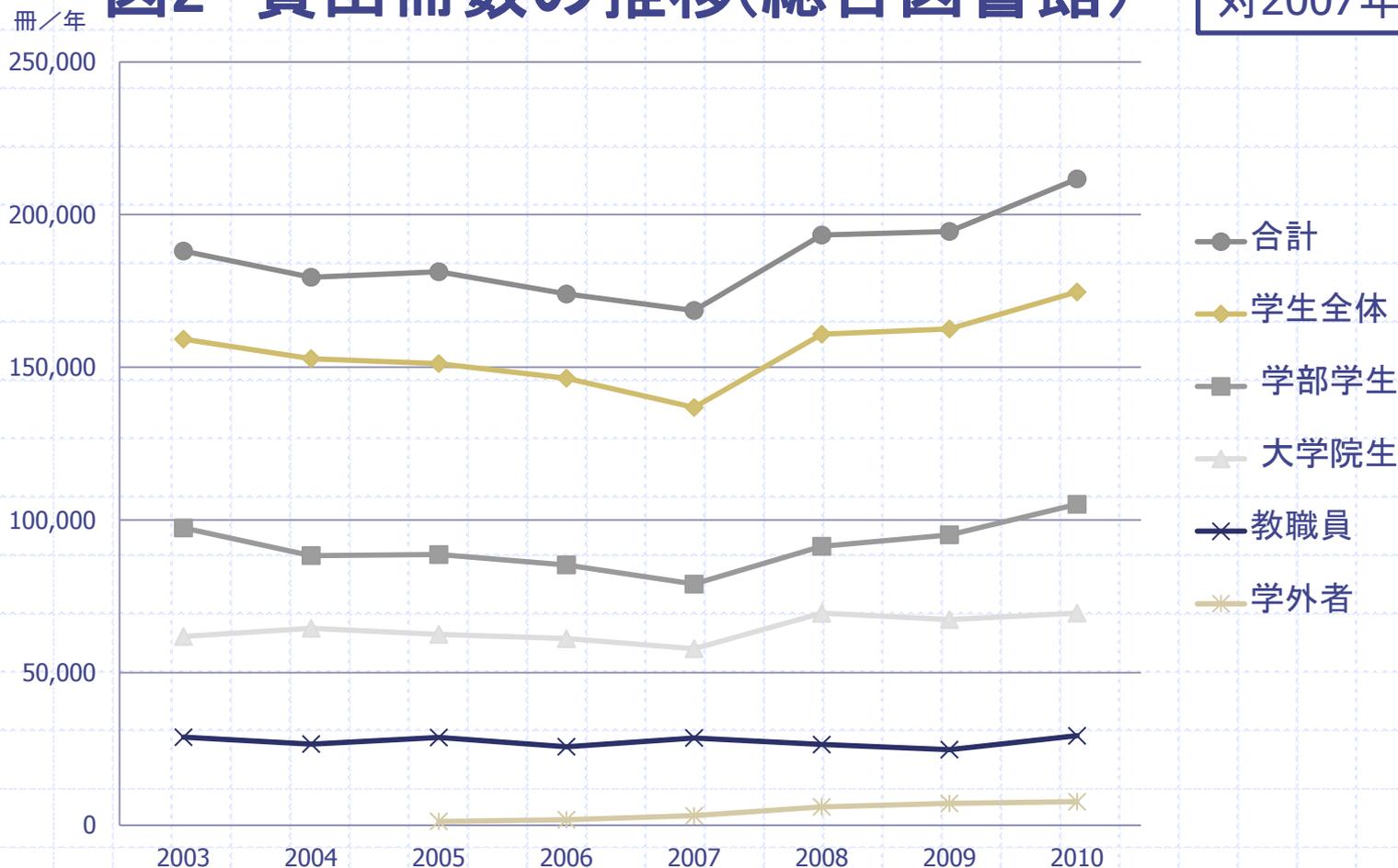
「ゲート通過人数」

- ・ 座席数の変化：2010年度の対2007年度比は 1.04
- ・ あるいは、単なる新築効果!?
- ・ 大学院生・教職員については、微減
 - 非来館型利用にシフトしたことが大きいと推測
 - 自習型のユーザをカバーできていない懸念?

3. 入館者数・貸出数増加を検証 (5)

図2 貸出冊数の推移(総合図書館)

2010年度の
対2007年度比



3. 入館者数・貸出数増加を検証 (6)

○貸出数増加の評価

- ・人が集まったほど本を借りる学生が増えたわけではない!? “貸出冊数／入館者数”の指数は 0.83
#分母が「ゲート通過人数」だとすると...
- ・資料整備が追いついていない? 館内で資料を利用する傾向??
- ・大学院生：貸出冊数の上限増加の2008年に急増し、その後は横ばい＝上限変更が大きな要因

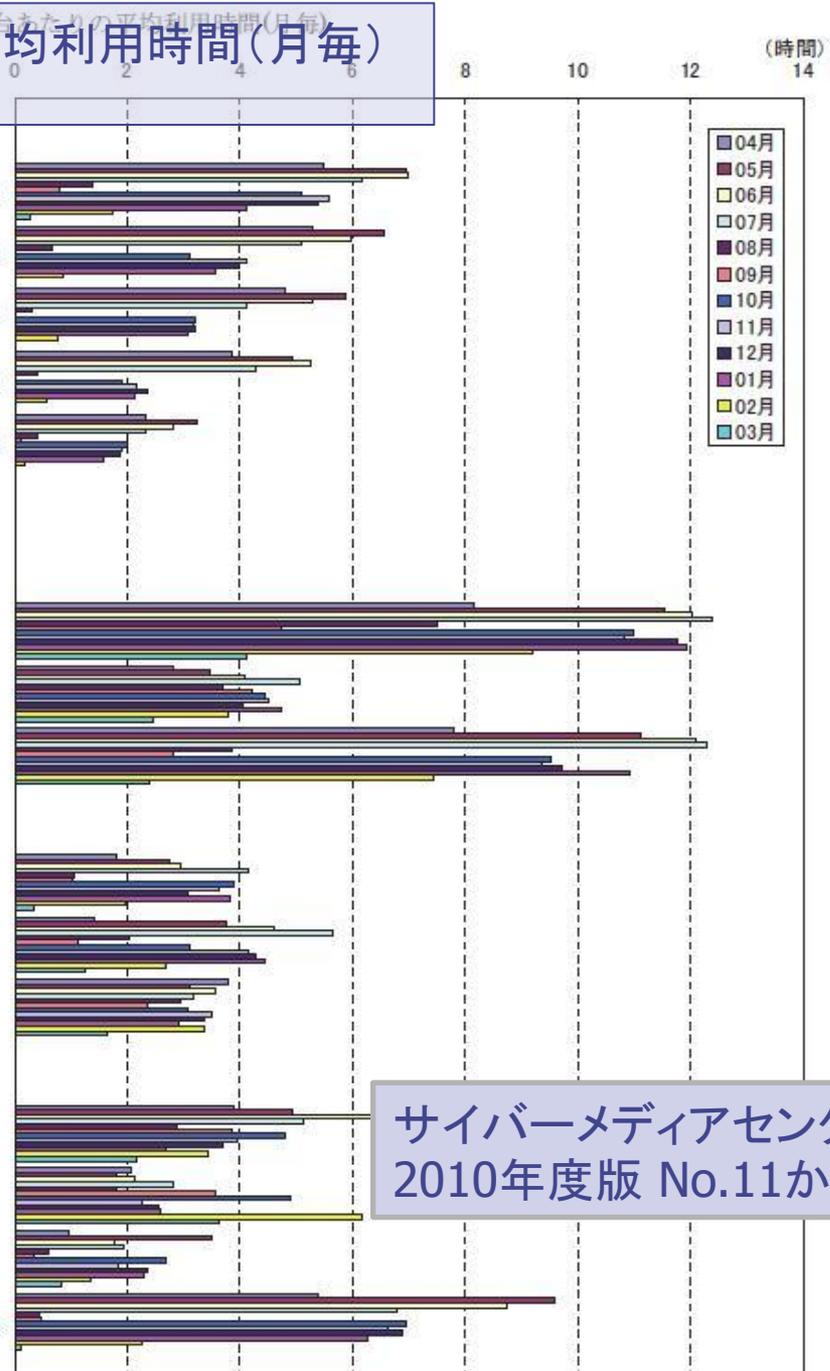
教室・分散端末別1日1台あたりの平均利用時間(月毎)

(*)情報教育システムの数値

豊中教育研究棟
 情報教育第1教室
 情報教育第2教室
 情報教育第3教室
 情報教育第4教室
 情報教育第5教室

附属図書館
 総合図書館
 生命科学図書館
 理工学図書館

人間科学部 計算機室
 理学部 B214
 医学部 講義棟
 医学部 病棟
 医学部 保健学科
 歯学部 C-313A
 薬学部 217
 工学部 GSEコモン棟



サイバーメディアセンター年報
 2010年度版 No.11から引用

3. 入館者数・貸出数増加を検証 (7)

○それらの推移から見えてきたもの

- ・ 場所としての総合図書館は、”学部生向け学習用図書館の性格”が強くなりつつある
- ・ ”場所としての利用”が相対的に増えたことが推測
- ・ ”コモンな場所”になった!?

但し、

表面的な数字

いずれ上昇傾向は止まる

4. 場所の提供についての課題 (1)

○ 「場所の提供」の面白さ／難しさ

- 「話せる/議論できる場所」という目的
そのための場所が不足している印象
- 一方、お一人で利用するユーザ
落ち着く場所は人それぞれ
- ピロティ、講義室の入口のような性格?
例えば、雑談をどう評価するか
- 場の秩序/利用形態が自然に保たれるためにはどうすれば?

4. 場所の提供についての課題 (2)

○ 「場所の提供」の面白さ／難しさ

- PCの功罪、協同学習の妨げ??

- 座席数

- 観察/アンケート



5. 総合図書館での学習支援 (1)

- レポートの書き方講座 (2010.6, 2011.6)
- Teaching Assistant (TA)
- 「オンデマンド・ミニレクチャー」を企画中
- 論文の書き方/文献の読み方プチゼミナール
- 図書館スタッフによる「ミニ講習会」
- 授業でのラーニング・コモンズの利用

5. 総合図書館での学習支援 (2)

○レポートの書き方講座 (2010.6, 2011.6)

- 講師は教員、主に1回生を対象
 - 2010 : 全3回、延べ47名参加
 - 2011 : 全3回、延べ59名参加
- 内容 : (次のスライド)
- 背景 :
- 参加人数の増加 : 広報? ニーズ? 場所?
- アンケート結果(2011) : 全体の合計で「とても役に立つ」が約半数 (一方、回毎に減った参加者...さすがに増えたりしないでしょうが)

好評につき、
今年も開催！

レポートの書き方講座

(全3回)

レポートを書くときに、何から手をつけてよいのか、どう書いたらいいのか、分からなくて困っていませんか？ 実習を織り交ぜたこの連続講座で、レポートを書く際の基本的な考え方や手順を身につけましょう。

【第1回】 6月13日（月） 5限（16:20～17:50）

テーマ：「**まずは形から入ろう**」

レポートの形式の整え方、Wordの基礎を学びます

【第2回】 6月20日（月） 5限（16:20～17:50）

テーマ：「**最低限のルールを守ろう**」

資料の探し方、引用の仕方、参考文献の書き方を学びます

【第3回】 6月27日（月） 5限（16:20～17:50）

テーマ：「**よりよいレポートにするために**」

論の構成や展開方法について学びます

場所： 総合図書館(豊中)
B棟2F ラーニングコモンズ
講師： 堀 一成 准教授(大学教育実践センター)
対象： 学部1年次生（※希望があれば1年次生以外も可）
定員： 各回 20名（事前申込制、部分参加可）
備考： ノートパソコン持参のこと（MS-Word必須）



参加希望者は、氏名・所属・学年・参加回を明記の上、下記までメールにてお申込ください。

申込先 [sogo-kouza\[at\]library.osaka-u.ac.jp](mailto:sogo-kouza[at]library.osaka-u.ac.jp)

※先着順で定員になり次第締切とします。



総合図書館 利用支援課 サービス企画 担当/久保山 TEL:06-6850-5056



5. 総合図書館での学習支援 (3)

○Teaching Assistant (TA)

- ・ 大学院生 計6名（経、人、理、基礎工、工、
言文）； 25h/w (6名の合計)
- ・ 学習相談、PC/ソフトの利用相談、ミニ講習
会、選書、文献リストの作成、レポート・論
文作成のアドバイス、
- ・ 実績（2010年度）
講習会 8回、参加者 24名
対応件数 960件

5. 総合図書館での学習支援 (4)

○2011年度後期、TAや図書館スタッフによる「オンデマンド・ミニレクチャー」を企画中

- 学部生をターゲット
- 学習に役立つ約30分のいくつかのプログラム
- プログラム作成は、TAと職員の共同作業
- 希望者に対して、随時プログラムを提供
- カウンターあるいはカウンター周辺で実施
- 加えたい視点：“商品化”、頻度の増加、スタッフの講師回数増加、若手職員も経験、定例化(“事業化”)、ニーズの把握

5. 総合図書館での学習支援 (5)

○論文の書き方/文献の読み方プチゼミナール
(2010.12~2011.1)

全4回、延べ18名参加

教員と図書館スタッフの協同

※今年度も鋭意準備中。

図書館スタッフ担当部分は、「オンデマンド・ミニレクチャー」のメニューとして提供することも検討中。

5. 総合図書館での学習支援 (6)

○図書館スタッフによる「ミニ講習会」

- 初心者向け講習会「論文を入手しよう！」
(2011.6月、同一内容を2回開催、45分)
- DB講習会の開催期間中に実施
- 参加者：①10名 ②13名
 - (1) 論文を収集し、読む意味とは？
 - (2) 論文を探す方法
 - (3) 書誌情報から論文を入手しよう
 - (4) 論文DBを使ってみよう



5. 総合図書館での学習支援 (7)

○授業でのラーニング・コモンズの利用

- 共通教育科目「基礎セミナー・図書館パスファインダーをつくろう」
- 期間 2011年度前期, 全13回
- 受講生 3名 (公開講座受講の高校生 2名を含む)
- 授業の概要

(*) 2010年度は、後期に2コマの利用



5. 総合図書館での学習支援 (8)

○様々な課題

- 教員との連携模索
 - そのための”商品開発”
 - 他部局の学習支援組織
 - 効果分析
 - マンパワー
-
- 自分たちの「枠」、「自己イメージ」の変化
 - いつまでOPACの利用指導!?

5. 総合図書館での学習支援（補）

（補論：問題の投げかけ）

○ライティング指導を図書館がすべきかどうか

- ・ 図書館「が／で」すべきか
- ・ 学内パブリックな場所の一つ
- ・ 教育研究支援を行う組織と言うなら
- ・ 「強み」は？ 資料？ 場所？ PC？ NW環境？ スタッフ？ TA？

5. 総合図書館での学習支援（補）

- ・ シラバス指定図書コーナー 2011.3～
 - 全てのシラバス指定図書ではない。2011年度は、当年度に追加された図書を2冊。
 - リストの提供や、全ての図書の配置等が課題。



- ・ キャリア支援図書コーナー 2011.8～

- キャリア支援課とのコラボ



5. 総合図書館での学習支援 (補)

- ・ 図書館コースリザーブサービス ;
International College 対象 2011.10～
- ・ ○△コモンズ!? 今年度?

6. まとめ

- 総合図書館ラーニング・ commonsの概要
- 入館者数・貸出冊数増加を検証
- 場所の提供についての課題
- 総合図書館での学習支援の取り組み
図書館スタッフのスキル確保、
「商品化」「事業化」も

参考資料

- ・上原恵美. 大阪大学のラーニング・コモンズにおける教員やTAとのコラボレーション (これからの図書館を考える-琉球大学附属図書館ワークショップ. 2011年2月17日)

http://ir.lib.ueh-ryukyu.ac.jp/bitstream/123456789/18848/1/20110217_uehara.pdf

- ・上原恵美, 赤井規晃, 堀一成. ラーニング・コモンズ:そこで何をするのか、何がやれるのか. 図書館界 63(3) 2011.9

<http://ir.library.osaka-u.ac.jp/meta-bin/mt-pdetail.cgi?cd=00041994>